

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	上位目標：チェンマイ県6郡の30～60歳の女性が、子宮頸がん・乳がんに対する知識を向上させ、定期的な検診を実施することにより早期発見・適切治療を促すことで、両がんによる死亡率を低下させる。 上位目標の達成度：3年間6郡で子宮頸がん検診（細胞診）により異常が見つかった女性は241名、乳がん自己触診により異常が見つかった女性は147名おり、各々が精密検査を受けた。このうち子宮頸がんと診断されたのは6名、乳がんと診断されたのは21名で、全員が症状に合った治療を受けている。このことから当事業は、上位目標である両がんによる死亡率の低下に寄与している。
(2) 事業内容	第3期は、ハンドン郡とサンパトン郡に居住し、がん検診の公的な対象年齢である30～60歳の女性28,969名を対象として活動を実施した。 1. 地域のリーダーへ当事業の説明会 11月20、23日、2郡の郡保健局長、町病院看護師ら計64名に当事業の説明を行った後、年間活動計画を作成した。 2. 事業オープニングセレモニー 11月26日ハンドン郡にて、11月27日サンパトン郡にて開催。県保健局長、郡病院職員、町病院看護師ら計500名が参加し、当事業の開会を宣言した。 3. 教育教材の作成 パンフレット、検診記録張、ポスターを作成し、対象者・対象病院に配布した。分かりやすい教材は、看護師、村のヘルスボランティアや一般女性からも人気であった。 4. 医療機材の整備 7種類の医療機材を2郡病院、31町病院、ナコンピン病院（検診で異常が見つかった女性の紹介先）に整備し、有効に活用した。 5. 看護師の研修 1月10日は2郡合同で講義中心、11日は郡毎に実技を交えての研修を実施し、計66名の看護師が参加した。看護師はここで身につけた知識と技術を生かし、検診キャンペーン等で実際に検診を行った。 6. 村のヘルスボランティアの研修 1月21、22、23、24、25日にはハンドン郡にて436名、1月15、16、17、18日にはサンパトン郡に

	て 480 名の村のヘルスボランティアに対し研修を実施。研修を受けた両郡の村のヘルスボランティア計 916 名はその後、各家庭を訪問したり村の集会の場を利用し、検診受診を呼びかけた。 7. 子宮頸がん・乳がん検診キャンペーン ハンドン郡にて計 42 回、サンパトン郡にて計 57 回の検診キャンペーンを病院と当団体との共同で実施した。その他、病院が自主的に実施したキャンペーン 20 回と合わせると 2 郡で年間 119 回実施したことになる。移動検診車を使うことで、村の集会所や工場等で、ときには土日にキャンペーンを開催できたため、平日に病院での検診が難しい女性も検診を受けることができた。 8. 「がん予防と食事」に関するワークショップ 村のヘルスボランティアデーに合わせ 3 月 20 日両郡にて実施。ワークショップに訪れた村のヘルスボランティアに対し、がんを防ぐ健康的な食事方法を紹介した。 9. 選ばれた村のヘルスボランティアの特別研修 2 月 14 日ハンドン郡にて、2 月 15 日サンパトン郡にて村のヘルスボランティアの中から選抜されたボランティアを対象に特別研修実施。がんに関するより深い知識を身につけると同時に、検診キャンペーン時の検診器具の準備など看護師の補佐業務について学んだ。 10. モニタリングのための病院訪問 郡病院や郡保健局、ナコンピン病院（検診で異常が見つかった患者の紹介先）を訪問。キャンペーンの実施状況や、検診受診者数を確認した。 11. 中間会議 5 月 28 日に実施。2 郡から 38 名の看護師と郡保健局長らが参加し、検診を受けたことのない女性へのアプローチ方法や異常が見つかった患者の家庭訪問の手順等について話し合われた。 12. 年次会議 10 月 29 日に実施。2 郡から 66 名の看護師と県保健局副局长、郡病院長らが参加し、事業終了後もどのように高い検診受診率を維持するかについて議論した。 13. 評価活動 県保健局副局长、郡病院長、看護師、村のヘルスボランティア、選ばれた村のヘルスボランティア、検診キャンペーンに参加し
--	---

	た一般女性を対象に、インタビューと質問票調査を行った。当事業に対して前向きな意見が多く聞かれた。
(3) 達成された効果	第3期に2郡で達成された効果について記載する。 1. ハンドン郡では対象年齢の女性13,964名の67%に当たる9,414名が、サンパトン郡では15,005名の69%に当たる10,402名が、2郡を合わせると28,969名の68%に当たる19,816名の女性が検診キャンペーン等にて子宮頸がん検診を受診した。事業実施前の2009年はそれぞれ22%、24%であったことから、当事業により飛躍的に検診受診率が向上したことが分かる。 2. ハンドン郡では対象年齢の女性の95%に当たる13,244名が、サンパトン郡では98%に当たる14,779名が、2郡を合わせると97%に当たる28,023名の女性が検診キャンペーン等にて乳がん自己触診法を学び実施した。(村のヘルスボランティアが村の集会や個別の自宅訪問の際に直接教えたケースも含む。) 3. 子宮頸がん検診によりハンドン郡で14名、サンパトン郡で32名、計46名の女性に異常が見つかった。異常が見つかった女性は100%病院でその後精密検査を受けたが、がんと診断された女性はいなかった。また、乳がん自己触診によりハンドン郡で8名、サンパトン郡で30名、計38名に異常が見つかり100%病院に紹介された。そこでの精密検査の結果2名にステージⅡの乳がんが見つかった。がんが見つかった女性は、その後病院にて治療を続けることになる。 上記の通り、両郡で子宮頸がん検診受診率50%、乳がん自己触診実施率70%、また検診の結果異常が見つかった女性が100%精密検査や治療を受けられるように各病院に紹介するという事業目標を達成することができた。
(4) 持続発展性	1. 第1、2期の活動地では、当事業終了後も高い検診受診率を維持しており、自立発展性は高い。第1期の活動地であるサラピー郡で昨年は58%、今年は60%(当事業前は18%)、サンカンペン郡で昨年は42%、今年は60%(当事業前は11%)であった。第2期の活動地であるドーイサケット郡で今年は51%(当事業前は8%)、サンサイ郡で50%(当事業前は8%)であった。 1. 第3期の活動地であるハンドン郡とサンパトン郡では、事業終了後も現地政府からの資金を獲得し、各町病院で年2回ずつ、計66回の検診キャンペーンを継続する予定であると郡病院長が述べてい

	る。 2. 今後は看護師や選ばれた村のヘルスボランティアらが主体となり、村のヘルスボランティアの教育を行うこと、また村のヘルスボランティアが引き続き一般女性へ検診受診を勧める啓蒙活動を行うことが最終会議で話し合われた。 3. 当事業を通じて検診キャンペーンに参加した女性住民は、保健教育を通じて定期的に検診を受診することの重要性を把握しているため、今後も自発的に検診を実施すると予想される。 4. 移動検診車は、第3期終了時にチェンマイ県保健局経由サラピー郡病院に寄贈し、維持管理費を含めて全てサラピー郡病院が管理することを取り決めた。各郡は必要に応じて移動検診車を借りて、検診キャンペーンで活用する。 上記のとおり本活動は現地に移管され、今後も高い検診受診率を維持することが見込まれる。
--	---